

春岡村の伝説

●春野にも円空が来た！宝積寺の円空仏

突然ですが、「円空」という僧をご存知ですか？

江戸時代はじめ、寺や民家で一宿の礼として鉞（なた）一本で丸太から仏像を彫り出しながら全国を行脚した岐阜生まれの修行僧です。その仏像は「円空仏」と呼ばれ、全国に五千体以上、埼玉県では岐阜、愛知に次いで多い171体が発見されています。

その円空が元禄2年（1689）頃、日光御成街道を通って日光に巡拝の途中、現在の見沼区に立ち寄り、区内で58体が確認されています。そして、（旧）深作村の菩提寺、アーバンみらいの入口にある宝積寺にも高さ62、3センチの役行者（えんのぎょうじゃ）像が残されています。また、お隣の丸ヶ崎新田の子繪社にも、高さわずか21、2センチの小さな菩薩型座像が残されていました。村人たちから寅子の話を聞き、その壺をなぐさめようと思って彫ったのかもしれませんが、円空が鉞（なた）を振るう様子を村人たちは「何だ、何だ」と集まって見ていたことでしょう

〈宝積寺円空作役行者像〉

三角に割ったスギ材の割り放ち面を刻み、背面は表皮を剥いだ木肌のままである。力強く刻まれた衣褶（いしゅう・衣装のひだやしわのこと）の厚い衣を身にまとい、右手に錫杖を持ち、左足の辺りに下駄が見える。顔は額や頬に深いしわが刻まれ重厚、謹直な作風です。

宝積寺の役行者像は公開されていませんが、実際に円空仏を見てみたい、という方は、島町の薬王寺で年6回の祭礼と元旦に、



島町の薬王寺（島町1086）



薬王寺不動明王

このお寺に残されていた薬師如来像や十二神将など圧巻の29体が一般公開されます。（1月1日、2月28日、3月12日、5月8日、8月12日、9月12日、12月8日）ただ、今年はコロナもあるので公開しているかどうかわかりません。宝積寺の役行者をはじめ、市内の円空仏の写真を見たいという方は〈さいたま市図書館ホームページ〉の電子書籍でだれでも見ることが出来ます。検索の仕方は
さいたま市図書館ホームページ↓さいたま市電子書籍サービス↓地域資料（ログイン不要）↓資料を探す↓「おみやのぶんかざい」で検索↓『大宮の文化財1彫刻・古文書』↓「読む」を選択
なお、宝積寺の役行者は15ページに掲載されています。

（平山由喜）

